

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

「杉並区子育て優良事業者表彰制度」受賞！！

今年1月、当院は杉並区から「杉並区子育て優良事業者表彰制度」による優良賞を受賞いたしました。

この制度は、区内事業者の子育て支援への取り組みが多く企業の事業所に広がるよう、子育てに理解ある職場環境づくりのほか、子育て支援や地域貢献活動に積極的に取り組んでいる企業・事業所を表彰対象にしています。

当院では、育休を取得した職員が保育のことで悩むことなく計画通り職場復帰できるように平成24年5月、院内保育施設を整備して「くーるみんと保育室」を開設しました。今年4月には育休者6名が職場復帰し、全員が保育室の利用を希望しており、出産・育児で退職する職員はゼロでした。このようなハード面のほか出産前に総務課担当者から育児～職場復帰での各ステージでの公的支援制度を中心にまとめたフローチャートで説明するなどソフト面でも拡充に努めています。例えば、育児休業や産前産後休暇により収入がなかった場合でも、育児休業給付金や出産手当金など公的制度による所得補償や社会保険料の免除などです。

育児休業は女性だけでなく男性も当然取得できます。当院でも、今年始めて男性の育休者が生まれました。「子育てする父親がかっこいい」時代となり、家事・育児を主夫が担当するそんな時代になりました。

家庭と仕事との兼ね合い調整をどうつけるべきか、いろいろ迷うところもあると思います。夫婦で話し合って支援制度を上手に活用したり、お互いの時間管理のやり方を工夫することが必要です。

病院として今後も、仕事と子育てがうまく両立出来るようにワークライフバランスの実現に向けて、職員へのサポートを進めてまいります。

総務課 田上 秀峰
たかみ ひでみね



リハビリ科大特集!!

第1弾!! アクティビティについて

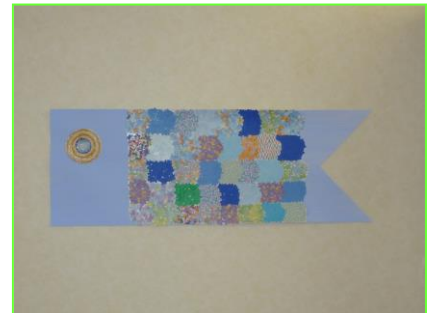


当院では主に作業療法にてアクティビティを提供しています。アクティビティという幅が広いので、手作業に限って紹介させていただきます。単に手作業というと趣味活動のイメージが強いですが、作業療法ではそれをリハビリの一環として活用します様々な道具を用いての活用します。様々な道具を用いての活動は手指の筋力強化や巧緻性の向上など身体機能の改善を目指せる事はもちろんですが、精神・認知・高次脳機能の低下に対しても効果があるとされています。当院では患者様が興味を持ち、新しいと感じることを第一に考え、それぞれに適したアクティビティを提案します。女性にはメタリックヤーンで作るティッシュケースや牛乳パックで作る小物入れなどの実用的なものが人気です。5月は子供の日にちなんだ「こいのぼり」を共同作成しました。アクティビティにて作品を作り上げることは達成感を得ると共に、退院後の生活に対する自身にも繋がると私たちは考えています。

作業療法士 ^{すすき} 鈴木 ひとみ・^{ふじた} 藤田 明日香・^{あすか} すぎもと 尚子



<<牛乳パックとメタリックヤーンで作ったティッシュケース>>



<<こいのぼりのアート>>

第2弾!! 訪問指導について

「訪問指導」とは、杉並区で行っている、在宅高齢者とその介護者に向けたサービスです。区から委託される形式で当院のSTが訪問事業に関わっています。訪問指導員にはST以外にも看護師、保健師、歯科衛生士、PT、OTなどがいて、利用者様のニーズに合わせて適性とされる職種が派遣されます。

病院で患者様に介入する場合は院内の環境で評価・訓練を行いますが、訪問事業では生活環境の中でご家族の協力のもと行うために、より生活に即したアプローチを行えます。

実際に訪問する時の多くは、担当ケアマネージャーが同席されます。利用者様の言葉や嚥下の評価を行い、その場で自主トレーニング方法や介護保険のサービスとの連携についてアドバイスを行います。また嚥下については適正な食事形態、食べ方などをお伝えします。

訪問指導は多くの場合が1回から2回で完結します。わずかな時間の関わりですが、ご本人・ご家族からは専門職に評価、指導されることによって安心出来るといったご意見を頂いています。杉並区に住む高齢者の方への援助として、少しでもお役に立てれば幸いです。

言語聴覚士 ^{わたなべ} 渡辺 美沙子

第3弾!!

装具の取り組みについて



当院では脳梗塞や脳出血により、運動麻痺を呈した患者様に対し、姿勢の安定や歩行の獲得を目指して、積極的に装具の必要性を検討しています。

装具の主な目的として、足部を固定し安定させること、歩行者のすり足を軽減させることなどにより、安全に日常生活動作を送れるようにすることが挙げられます。当院では、リハビリスタッフ間や医師と装具について検討し、専門の義肢装具士と相談して装具を作成しています。また装具完成後も医師や義肢装具士とともに装具の評価・調整などを行っています。このように装具作成を行う際も他職種と連携して進めています。

先日は当院に義肢装具士を招き、勉強会も開催しました。今後も装具についてスタッフの知識・技術を高めるため、このような取り組みをしていきたいと思っております。

理学療法士 さかもと こうき
坂本 光貴

看護部通信 廃用症候群とは??

廃用症候群の定義に安静臥床や不活動状態が長期にわたり続くことにより、各臓器・系に生じる2次的機能障害。1次的機能障害を引き起こす疾患とは直接的な関係はなく、予防もしくは最小限にとどめることが可能とあります。

寝たきりで何もしなければ不動の悪循環が起こり、筋骨格系、心血管系、呼吸器系、代謝系、泌尿器系、消化器系、神経系、皮膚など様々な働きが低下していきます。たとえば、筋力は長期間の安静により抗重力筋を中心に1週間で10~15%の筋力低下が、17週間の長期安静臥床で骨量は、骨全体で1.4%の減少、皮膚はみなさんご存知の褥瘡が発生するなど、体が退化していくばかりでいいことはありません。予防のためには早期離床（寝・食・排泄・清潔分離）とリハサービスの早期開始と必要十分量の提供、栄養管理が必要になります。寝るときは寝室（ベッド）で、食べるときは食堂で、排泄するときはトイレで、清潔にするときは浴室・洗面所で、病気になってからでも可能な限り早期に寝るところ、食べるところ、排泄するところ、清潔にするところを別にするのが予防につながります。

まさにこのことが回復期リハビリテーション病棟の役割の1つなのです。日頃私たちが何気なく過ごしている当たり前のことは病気になってからは普通でなくなってしまいます。回復期リハビリテーション病棟は生活のレベルを上げるところだと私は考えています。毎日毎日同じことを繰り返すことで再構築されます。時にはくじけることも多いけれど、退院する患者さまが笑顔で在宅復帰できるよう職員全員で取り組んでいます。

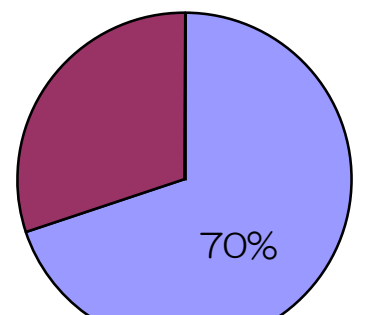
看護部長 そのだ のりみ
園田 祝美

給食委員会の取り組み

当院の給食委員会では、年に4回患者様対象の食事満足度調査を行っており、そのうち2回は経口摂取の方全員に回答をお願いしております。

今回の調査では、満足度全体としては70%となりましたが患者様の貴重なご意見など頂ける大事な機会です。例えば、カレーライス回数を増やしてほしい・だしの濃度が薄いなどすぐに対応できるものと、できないものはありますが、必ず頂いたご意見は給食委員会で議題に取り上げております。また、患者様のご病気により血糖や体重コントロール目的の場合で制限させて頂く患者様には管理栄養士から説明し、ご理解を頂いております。今後もリハビリを頑張っている患者様のお力になれるよう日々努めて参ります。

食事満足度調査結果



概ね満足!!

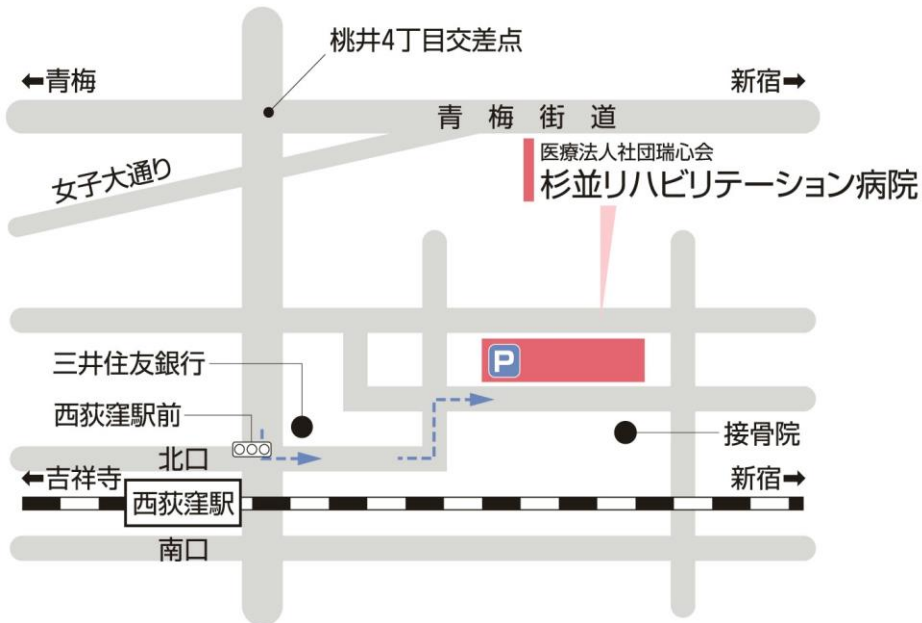
～当院の現況～

平成 26 年 3 月 平成 26 年 4 月 平成 26 年 5 月

稼働率	98.1%	98.0%	94.1%
入院延べ患者数	3072 人	2970 人	2947 人
在宅復帰率(直近 3 ヶ月:3～5 月)-----			83.3%
重症患者割合(直近 6 ヶ月:12～5 月)-----			37.1%
重症患者回復病棟改善割合(直近 6 ヶ月:12～5 月)-----			62.8%

- * 重症患者・・・日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合
- * 重症患者回復病棟改善・・・重症患者のうち4点以上の者が改善している割合

交通のご案内



- JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分
- 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km
西荻窪駅前信号を左(一方通行)

病院概要

開 院	昭和43年10月
理 事 長	中村 康彦
院 長	門脇 親房
病 床 数	101床(4床室・個室)
診療科目	内科・リハビリテーション科
診療時間	毎週 月・火・水・木・金 9:00～12:30
発行責任者	門脇 親房
発 行	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5
 TEL.03-3396-3181 (代) FAX.03-3396-3186 (代)

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>